

第23回死の臨床研究会の記録

特別講演 I

死は孤独であり、医の癒しは難い 故 和田武雄

近藤文衛

特別講演 II

人生の春夏秋冬と死の受容

柳田邦男

教育講演

学校教育におけるデス・エデュケーション

- 1 終末期医療と医療経済
- 2 日本人の死の臨床を今考える
- 3 サイコオンコロジー:がん患者の心の医学
- 4 モルヒネの効かない痛みへの対応
- 5 癒しと死

若林一美
西村周三
樋口和彦
山脇成人
志真泰夫
波平恵美子

シンポジウム I

「Spiritual Pain」

司会を担当して

- 1 スピリチュアルペインー医療者から隣り人へー
- 2 Spiritual Painへの対応ー看護の視点からの取り組みー
- 3 スピリチュアル・ペインとケア
- 4 生死を越えるー真実のケアを目指してー

柏木哲夫 澤田愛子
前野 宏
田村恵子
沼野尚美
木曾 隆

シンポジウム II

「悲嘆ケア」

司会を担当して

- 1 悲嘆ケアー心のケアと家族や社会の結びつきー
- 2 高齢期における配偶者死別後の悲嘆の問題
- 3 終末期患者家族の死別前後の悲嘆への援助
- 4 悲嘆体験者に対するグリーフ・ケア
- 5 「半分コ」の精神

郷久鉦二
郷久鉦二
澤田愛子
小島操子
平山正実
古川義則

事例検討

- 1 大腸癌腹膜播種性転移事例に対する緩和医療の検討
- 2 心理臨床家の関わりが死の臨床にもたらしたもの
ー藤土圭三氏の発表へのコメントー
- 3 「わがまま」の認識の変化に伴う家族の言動の変化
- 4 肺癌患者の治療継続を可能とするかかわりの検討
- 5 同世代の視線でいかに生を支えるか
- 6 終末期患者の意志決定を支える関わり
ー病名告知をめぐる患者・家族・医療者の思いのずれー
- 7 病状説明を拒否した患者の看護を考える
ーせん妄状態にある患者の思いを理解することが困難であった症例ー
- 8 一般病棟で一年近く療養した後、最期を迎えた患者への援助
- 9 患者さんから示唆された音楽療法の課題
ーチームアプローチによる音楽療法ー
- 10 一般病棟における緩和ケアの第一歩
- 11 終末期にレスピレーター管理を行なうなかで、死の受け入れが出来た家族から
今後の家族への死の準備教育のありかたを考える
- 12 終末期において食事に対する要求が高かった患者に
管理栄養士として関わった一症例の検討

山崎章郎 松島たつ子

三木浩司 佐藤禮子
藤江良郎 長谷川陽子
村上國男 小松万喜子
河野博臣 加藤由美子

傳野隆一 西森三保子

小澤竹俊 橋本美恵子
菅原邦子 渡辺 正

小松浩子 篠田知璋
柿川房子 高宮有介

辻 悟

藤井義博 長谷川朝子

教育セミナー

死の臨床とコミュニケーション 「医療者とコミュニケーション」

柿川房子

日本死の臨床研究会第6回関東支部大会 市民公開講座記録

講演「宇宙物理学者の語る命と死」

対談「人間らしく生きるとは？」

佐藤勝彦

水口公信 佐藤勝彦 山崎章郎

原著

- 1 死生観に関する研究－死生観尺度の構成と信頼性・妥当性の検証
- 2 臓器提供が家族の悲嘆に与える影響に関する予備的研究
- 3 精神的苦痛をともなった終末期癌患者に対する鎮静
- 4 骨盤内悪性腫瘍に伴うがん性疼痛の特徴と治療の有効性
- 5 頭頸部癌患者の口内炎に対するインドメタシン水溶液の治療効果
- 6 がん患者のための継続的サポートグループの意義
- 7 在宅の終末期におけるSpiritual Painの癒しについて

平井 啓 ・他
中西健二 ・他
森田達也 ・他
池永昌之 ・他
白土辰子 ・他
広瀬寛子 ・他
佐藤 智

調査報告

- 1 一般病院における疼痛マネジメントの推移
- 2 訪問看護ステーション、在宅診療部における在宅死の取り組み
- 3 当院ホスピス入院患者におけるMRSA感染の現状と対策

松浦麻里子 ・他
黒子幸一 ・他
安保博文 ・他

第 32 回日本死の臨床研究会の記録

基調講演

1. 生死マンダラ 千歳 栄

特別講演

1. 地域で生老病死を診るーいのちの音にみちびかれて 方波見康雄

教育講演

1. スピリチュアルケア 田村恵子
2. 看取りの文化 新村 拓
3. 地域に広がるホスピスケアーケアタウン小平の取り組みから 山崎章郎
4. 末期癌患者の家族との関わり 沼野尚美
5. 死の臨床と医学的リハビリテーション 安部能成
6. 風に立つライオンの目指すことー良医を育てるシステム作りの試み 堂園晴彦
7. 日本宗教史と死の臨床 末木文美士
8. 悲嘆者を理解する文化へ 高木慶子

シンポジウム

1. 「介護施設でのホスピスケア」 総合コメント・司会 前野 宏
グループホームでの看取り 武田純子
在宅へ戻れない人をどこで見るー施設介護から、地域相互扶助の在宅介護へ 市原美穂
看取り介護の視点ー介護施設でのホスピスケア 菊地雅洋

鼎談（市民公開講座）

1. 「この別れ かの再会 その文化」 総合コメント・司会 柏木哲夫
打本顕真

パネルディスカッション

1. 「地域連携・在宅ホスピス」 総合コメント・司会 生井久美子・関本雅子
ホスピス緩和ケア地域連携パスー運用の難点 山田祐司
がん終末期患者の在宅継続で揺れる気持ちに寄り添うこと 季羽倭文子
「どこでも安心して暮らせる」がん患者と家族中心のサポートネットワーク形成 田村里子
地域連携を支える制度とその課題について 山田雅子

ミニワークショップ

1. 緩和ケアと音楽療法 中山ヒサ子
2. スピリチュアルケアー現象学的アプローチ 村田久行
3. 心身相関系代替医療によるアプローチ
ーヒーリング、アロマセラピー、ホメオパシー、バッチ・フラワーエッセンス 川嶋 朗
4. 「STAS-Jの使用経験とこれからの課題 2008」開催報告 宮下光令・中島信久

事例検討

1. 治療中止が死に直結する状況での医療者の判断と関わり
ー治療中に不可逆的と判明した血小板減少症例 柴田岳三・吉田智美
2. 妊娠16週の終末期患者とその家族との関わりー患者への最善を求めて
福德雅章・二見典子
3. 事例から学ぶ最期の倫理ー北海道の地で看取りたい、24時間の大移動 中谷玲二・高澤洋子
4. 最愛の母親を失う、思春期・学童期の子どもへの関わり
ー子どもたちの苦悩に寄り添えなかったケースを通して 細井 順・梅田 恵
5. 精神疾患を持つ（終末期）がん患者への緩和ケアとは
ー緩和ケアと精神科看護との狭間での看護師の葛藤 柏木哲夫・小笠原利枝
6. 「自己決定」と「家族の思い」ーNIPPVの着脱を繰り返した事例を通して
高宮有介・内海明美
7. 在院日数が短く、家族への説明が不十分と思われるケースへの対応 本家好文・安藤詳子
8. 望まない入院をした患者のQOLを支えるには
ー医療者のジレンマを通して考える 末永和之・岩崎紀久子
9. 「僕は死なないと思う」独自の死生観を持つ患者との関わりから学んだこと
林 章敏・阿部まゆみ
10. 疼痛コントロールが不十分のため「半年間が無駄だった」といわれた
在宅希望の患者・家族を通しての一考察 池永昌之・關本翌子
11. 母を亡くす思春期の子どもに対するグリーフケア
ー複雑な関係にある患者・家族との関わりを振り返って 小澤竹俊・大西和子
12. 患者が最期まで自己決定できなかった事例を通して 恒藤 暁・川村三希子
13. 終末期におけるMSWの寄り添いとは
ーホスピス入院後4日目に自主退院したケースを通して 佐藤 健・太田桂子

原著論文

1. 特別養護老人ホームにおけるターミナルケアに関する研究
ー医療的処置の実態からの検討 岩村テルヨ
2. がん患者に発症する口内炎に対するインドメタシンパッチの有用性 三輪典子 他
3. がん再発体験者のスピリチュアルニーズの変容ー心を支える生き方 荒井春生

調査報告

1. 末期がん患者をもつ家族の看護師に対する期待 熊谷有記 他
2. 終末期在宅がん患者を支える家族に対する看護支援 熊谷有記 他
3. 死を迎えた再発乳がん患者の配偶者（夫）の思いと希望
ー臨床看護現場での面接内容からの分析 実藤基子

症例報告

1. 子どもをもつ若年層寡婦を対象としたグリーフケア
ーセルフヘルプグループへの期待と参加条件 倉林しのぶ

第 31 回日本死の臨床研究会の記録

教育講演

- | | |
|-----------------------------|------|
| 1. 個別ケアの方向性を見定めるー対立の構造 | 薄井坦子 |
| 2. 患者の心に寄り添うーセカンドオピニオン相談の日々 | 杉町圭蔵 |
| 3. 死にゆく人と死について話す | 内布敦子 |

特別講演

- | | |
|------------------|------|
| 1. 水俣からのメッセージー宝子 | 原田正純 |
|------------------|------|

シンポジウム

- | | | |
|---|-----------|-------|
| 1. 「患者・家族の声を聴くー患者・家族は語る」 | 総合コメント・司会 | 柏木哲夫 |
| 沙夜子からの宿題 | | 浦田美沙子 |
| 死と向き合いながらの医師と患者の溝 | | 安岡佑莉子 |
| 天国からの手紙 | | 佐方義男 |
| ステージ IV に直面してー私なりの「メメント・モリ」の発見（患者の立場から） | | 萬羽晴夫 |
| 2. 「患者・家族の声を聴くー医療者の取り組み」 | 総合コメント・司会 | 山崎章郎 |
| 患者・家族の心の声を聴くー看護師の立場から | | 安達美樹 |
| ホスピスのところによって聴く | | 前野 宏 |
| 患者・家族の心の叫びへの関わり | | 沼野尚美 |

ミニワークショップ

- | | |
|--------------------------------|------|
| 「STAS-Jの使用経験とこれからの課題 2007」開催報告 | 宮下光令 |
|--------------------------------|------|

ランチタイムセッション

- 水俣ほっとはうすとーく

事例検討

- | | |
|--|------------|
| 1. 患者の思いに沿う関わり方の検討ー告知の視点から | 小林秀正・内布敦子 |
| 2. ALS 患者の死を通してー医療者側が与えたいこと VS 本人・家族が求めること | 田村恵子・庄司進一 |
| 3. 在宅で周囲に「気を使い」続けた患者への関わりー家族・医療者の戸惑い | 山口龍彦・高沢洋子 |
| 4. 尊厳死を望む家族との関わりを振り返って | 高宮有介・藤川孝子 |
| 5. ハグとユーモアを添えた在宅緩和医療を実践してーおげんきクリニックの試み 第 2 報 | 山崎章郎・梅田 恵 |
| 6. 看護師の苦悩ー不安の強い患者のケアを通して | 堀 泰祐・久保山千鶴 |
| 7. 突然の死につながる装具解除に対して、医療者は法的責任を免れうるか？ | 前野 宏・田中紀美子 |
| 8. 性的言動を繰り返す患者のスピリチュアルペインと看護師の葛藤 | 柏木哲夫・木山麗子 |
| 9. 「あきらめの医療」と捉えられた事例を通して | |

- 家族の言動から気づけなかった理解の相違を考える 細井 順・正司明美
- 10. 在宅緩和ケアにおける家族へのアプローチ
 - 突然の余命宣告を受けて混乱している家族への関わり 下稲葉康之・阿蘇品スミ子
 - 11. 終末期患者の意志決定を支える関わり
 - 鎮静導入に際し意見相違が生じた家族を通して学んだこと 恒藤 暁・柿川房子
 - 12. 緩和ケアにおける自己決定権と倫理的問題
 - 気管カニューレを自己抜去された患者さんのケアを通して 池永昌之・清水千世
 - 13. がん末期患者への病状告知を拒否した家族への対応について 林 章敏・河 正子
 - 14. 「その人らしい時間」に寄り添うケア
 - 音楽が生き甲斐だったA氏の事例を通して 小林真寿子・宮里邦子

教育研修ワークショップ

2007 年度第 2 回日本死の臨床研究会教育研修委員会主催教育研修ワークショップ報告

庄司進一

原著論文

- 1. 日本語版「Collett-Lester 死の恐怖尺度」の因子構造の分析
 - 看護師の死に対する恐怖レベルを把握する尺度の確定 安川敬子
- 2. ホスピスで家族を亡くした遺族の心残りに関する探索的検討 坂口幸弘 他
- 3. 協働で行う死後の“入浴ケア”（湯灌）が家族のグリーフに及ぼす影響 多賀裕美 他
- 4. 死別経験者に向けた小冊子の必要性と項目内容に関する研究
 - 死別経験者の意見と要望を通して 中里和弘 他

調査報告

臨床看護実践におけるホスピスケア認定看護師の役割認識 澤井美穂 他

第 30 回日本死の臨床研究会の記録

講演

1. だれかを喪（うしな）うということ 鷺田清一
2. 喪失、悲嘆、そして意味の探求 (Loss, Grief, and the Quest for Meaning)
ロバート・A・ニーマイヤー
3. 悲しみに寄り添うー去り逝く人と遺される人にー 高木慶子

シンポジウム

「日本死の臨床研究会の展望ーこれからの 10 年に向けて」

総合コメント：司会 山崎章郎・松島たつ子

- 死の臨床の垣根を考える 梅田 恵
- 日本のどこにいてもどんな病気であったとしても安心して最期を迎える社会にするために
小澤竹俊
- 死を生きるささえに何を求めるのか 佐藤雅彦
- コミュニティでケアを考える市民の立場から
ーいろいろな専門家と一緒に仕事をしてきて考えたことー 長谷方人

パネルディスカッション 1

「悲しみにある人とともに」

総合コメント：司会 井田栄一

- あれから 12 年ー死泡汗名 4 人家族が今は独りに 片木精治
- ホスピス・緩和ケア病棟の現場からー家族と遺族のケアで心がけていることー
二見典子
- 遺族ケアの考え方とこれからの課題 坂口幸弘
- グリーフカウンセラーとして取り組む遺族ケア 米虫圭子

パネルディスカッション 2

「ギア・チェンジャー患者と医療者の心の動き」

総合コメント：司会 志真泰夫

- 患者の側からみたギア・チェンジ 津田 真・前林佳朗
- 病状の進行・変化につれて、がん患者にどのような心理社会的問題が起こるのか
ーギア・チェンジがうまくいかなかった 1 例から学ぶー 栗原幸江
- がん患者の病状が変化していく中で、治療に携わる医師にはどのような心理的变化がおきるのか
中島信久
- ギア・チェンジャーがん治療に携わる看護師の心の動きー 吉田智美

ミニワークショップ

STAS-J の使用経験とこれからの課題ーSTAS-J 導入の成功と継続使用のためにー 宮下光令

事例検討

1. 「死にたい」と言い、リストカットを行った終末期がん患者と家族へのチームアプローチ
柏木哲夫・藤川孝子
2. 希薄化した家族が終末期の主（あるじ）を抱えた一例を振り返って 前野 宏・磯崎千枝子

- | | |
|---|------------|
| 3. ホスピス・緩和ケア病棟での化学療法 (chemotherapy) の適否 | 渡辺 敏・小松浩子 |
| 4. 日本人の民族性における看取りとグリーフケアについて
ー死に目に会えなかった事例を通してー | 本家好文・渡会丹和子 |
| 5. 最期まで「死ねない」と言い続けた患者との関わりを通して | 末永和之・藤腹明子 |
| 6. 医師である白血病患者のターミナルケアを考える | 高宮有介・荒尾晴恵 |
| 7. 心に寄り添うギア・チェンジ
ー「本当はここは来たくなかった」と告げた一事例からの検討ー | 安保博文・河 正子 |
| 8. ターミナル期に外泊を選択したのはなぜか
ー生きることを強く望んだ事例を通してー | 小田式子・西森三保子 |
| 9. 延命処置のために緩和ケア病棟から一般病棟へ転棟した事例
ー死を受け入れられない家族のために行ったことー | 渡辺 正・若村智子 |
| 10. ひとり暮らしでも家で過ごしたい
ー独居の肺がん患者の在宅ホスピスケアー | 黒子幸一・高沢洋子 |
| 11. 病状を知る事を避け続けた患者さんへの治療をめぐる医療者の倫理的葛藤 | 庄司進一・久保山千鶴 |
| 12. 子供を失った家族 (母親) の悲嘆について考える
ー対象の内面より理解するためにー | 堀 泰祐・正司明美 |
| 13. 薬害によるHIV・HCVを感染した血友病患者をホスピスで支える | 山崎章郎・豊田邦江 |
| 14. 末期がん患者への在宅中心静脈栄養法 (HPN) についての一考察 | 関本雅子・清水千世 |
| 15. 患者の望む形での病状説明が困難なとき | 白土辰子・林 章敏 |
| 16. 「神様助けて～」の叫びにどうケアできるのか? | 原 敬・菅原邦子 |

教育研修ワークショップ

2006 年度第 2 回日本死の臨床研究会教育研修委員会主催教育研修ワークショップ報告

庄司進一

原著論文

- | | |
|---|--------|
| 1. 終末期患者看護におけるトータルペインの理解を促す授業方法の開発 | 浅野美知恵 |
| 2. 死に関する情報を含む映像が高齢者の情動変化に及ぼす影響
ー映像に対する関心の高さ、死別体験の影響ー | 尾崎勝彦 他 |

調査報告

ホスピス緩和ケア病棟における音楽療法の評価についての試み
ースピリチュアル・ペインに着目したQOL調査票を用いてー

前田のぞみ 他

第 29 回日本死の臨床研究会の記録

特別講演

- | | |
|-----------------|------|
| 1. 社会運動としてのホスピス | 柏木哲夫 |
| 2. 金子みすゞの世界といのち | 矢崎節夫 |
| 3. 懸命に生きることの大切さ | 池間哲郎 |

教育講演

- | | |
|---|---------|
| 1. 日本の文化と看取りの作法 | 藤腹明子 |
| 2. パリアティブ・ケアとソーシャルワーク | ヘネシー・澄子 |
| 3. 臨床現場に即した音楽療法とはー日本のホスピス緩和ケアにおける音楽療法を模索してー | 新倉晶子 |
| 4. イギリスのホスピス事情 | 阿部まゆみ |

シンポジウム I

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 「わが国におけるホスピスの発展と展望」 | 総合コメント：司会 山崎章郎 |
| 有床診療所での緩和ケアの経験 | 堂園晴彦・吉見太助 |
| 在宅ホスピスケアの長所と可能性 | 杉山正智 |
| 施設ホスピスの立場から | 前野 宏 |
| ホスピス・緩和ケアにおける緩和ケアチームの役割 | 高宮有介 |
| 訪問看護ステーションにおける在宅ホスピスケアの実践と課題 | 佐藤夏織 |

シンポジウム II

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 「いのちをみつめて」 | 総合コメント：司会 篠崎文彦 |
| いのちのバトンタッチー小児がんで逝った娘から託されたものー | 鈴木中人 |
| 約束＝橋田信介と歩んだ道 | 橋田幸子 |
| 医療と宗教の“あいだ”にある現実 | 岩田啓靖 |

シンポジウム III

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 「がん治療と緩和ケアの接点」 | 総合コメント：司会 太田恵一郎 |
| がん緩和医療における腫瘍内科医の役割 | 渡辺 亨 |
| がん緩和ケア医の立場から | 向山雄人 |
| ギアチェンジへの意志決定に向けての実践から | 長谷川久巳 |
| 大学病院で活動するホスピスケア認定看護師として | 長澤昌子 |

パネルディスカッション

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| 「ホスピスにおけるボランティアの働き」 | 総合コメント：司会 大下大圓 |
| ピースハウス・ホスピスにおける 12 年間のボランティア活動 | 川上直美 |
| ホスピス・ボランティアの役割ーケアを求めてー | 石橋憲章 |
| 「患者らいろいろ」 とボランティアの役割 | 市原美穂 |

ミニワークショップ

1. STAS 日本語版を用いたクリニカル・オーディットー毎日のケアを見直すための演習と講義ー
河 正子
2. SP-CSS (スピリチュアルカンファレンスマーシート) を使ったスピリチュアルケア援助プロセスの検討
村田久行・原 敬+緩和ケアチーム
3. ホスピス緩和ケアネットワークの構築に向けて
前野 宏

特別企画・市民公開講座

「マザー・テレサへの旅路」 神渡良平

特別企画・市民公開講座

コンサートーいのちの賛歌ー ミネハハ

事例検討

1. 肺がん終末期に重度な精神症状を発現した患者との関わりを通して
ー精神的ケアの必要性ー 三木浩司
2. 文化としての死化粧とエンバーミングについて 高松哲雄
3. ハグとユーモアを添えた在宅緩和医療を実践してーおげんきクリニックの試み 柏木哲夫
4. 残された時間の意味 田村里子
5. がん告知における患者の理解・納得を妨げる要因と看護師のかかわり 大嶋満須美
6. 夫のターミナル期を在宅で介護された妻の思いから訪問看護の関わりを振り返る 川越 厚
7. プライマリケアチームに無力感を残した在宅緩和ケア専門チームの役割と連携のあり方
ー最期まで代替療法に希望を持ち続けた患者の在宅支援を通してー 黒岩ゆかり
8. 終末期の愛息から出逢うことを拒否され、その最期に立ち会えない父
(患者) へのケアを考える 中橋 恒
9. コミュニケーションを望まない患者の自己決定を支える 志真泰夫
10. 呼吸困難を緩和するとはー急激な呼吸困難発症後、看取りに至った〇氏への
看護を振り返ってー 田中桂子

原著論文

1. 緩和ケアチーム主導の公開カンファレンスと多職種連携促進効果 藤田智子 他
2. わが国の緩和ケア病棟におけるスピリチュアルケア提供者の現状と課題
ー宗教家の関与に視点を当ててー 菊井和子 他

調査報告

1. がん患者の終末期ケアにおける通所リハビリテーションの役割
介護保険によるがん終末期ケアの可能性ー 加藤恒夫 他

第 28 回日本死の臨床研究会の記録

特別講演

自然科学者の視点からみた生と死 養老孟司

招待講演

生きがいの創造－経営学者として読み解く人生のしくみ－ 飯田史彦

教育講演 I

終末期のたるさへのケア－倦怠感－ 渡辺 正

教育講演 II

死の臨床の研究 小松浩子

市民特別講座 II 交流セッション

「明るい社会をつくる－生と死の対する支援活動－」 司会 木下由美子
命燃やす日々 海野 信
ひびきあうところ 大須賀発蔵
メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンの活動について T D. Boyle

シンポジウム I

「病因別の緩和医療」 総合コメント：司会 志真泰夫 中川 翼
進行肺がん患者の緩和医療－終末期に至る状況とこれからの課題－ 大橋信之
泌尿器科悪性腫瘍患者の緩和医療－83 例の検討から－ 西田茂史
筋萎縮性側索硬化症患者の緩和医療－人工呼吸器を希望しなかった患者の苦痛とケア－ 加藤修一
HIV/AIDS 患者・家族のための緩和医療－抗 HIV 治療確立前後の比較－ 古西 満
高齢者医療と緩和医療－療養病床における終末期の諸問題－ 中川 翼

シンポジウム II

「死の臨床の教育」 総合コメント：司会 小澤竹俊
子ども達への命の教育における「共感」の必要性 甲斐裕美
学校現場での生と死の教育の展開 赤澤正人
緩和医療と医学部教育－大学と地域の連携による系統講義と実習と例検討の統合モデル－ 加藤恒夫
米国ホスピスケアの現場に見る患者と家族を対象とする実践的教育 服部洋一

シンポジウム III

「死の臨床における補完・代替療法」 総合コメント：司会 太田恵一郎 奈良林 至
補完・代替療法を駆使した新しい緩和医療の試み 東口高志
緩和ケアチームにおける補完・代替医療の取り組み
－第一報 アロマセラピーと漢方治療について－ 木下優子

緩和ケアの音楽療法（補完療法のひとつとして）の実践

ーチームケアの一環として音楽療法の可能性を考えるー

新倉晶子

ホスピス・緩和ケア病棟におけるアロマセラピーの現状

宮内貴子

彦根市立病院緩和ケア病棟における補完・代替療法の実際とその意義

黒丸尊治

パネルディスカッション

「死の恐怖からの解放ー笑って大往生するための処方箋ー」

総合コメント：司会 朝日俊彦 藤腹明子

笑顔で（納得して）死ぬためには

カール・ベッカー

ホスピス医の立場から

山口龍彦

一般内科医の立場から

館 有紀

事例検討

1. 在宅を希望しながらホスピスに転院した患者・家族の意志決定支援
ー急性期病院が終末期医療に取り組む課題ー 菅原邦子
2. 緩和ケアと化学療法の間でー一般病棟でのジレンマー 中木高夫
3. 入院を希望しながら妻の同意が得られず、最後まで在宅で過ごすこととなったケースを通じて 宮路みゆき
4. 宗教的援助を含むスピリチュアルケアについて考える 池永昌之
5. 往診医との信頼が揺らいだとき、末期がん患者が悔いのない在宅死を迎えるための緩和ケアチームの活動 平野 博
6. 父親がターミナル期にある5歳児への援助
ーコミュニティとしてチームで関わった事例ー 長谷川朝子
7. グリーフケアの一つの試みー夫の死の場面に立ち会えなかった妻への援助ー 細井 順
8. スピリチュアリティと向き合う 中島美知子
9. 進行性精巣腫瘍患者の死を経験して 黒田裕子
10. 身寄りのない患者に対する鎮静導入に関する倫理的問題 末永和之
11. 最期まで治療を望む癌終末期患者の自己決定を支えるということ 堀 泰祐
12. 祈祷師による代替療法を信仰する患者家族に対する看護援助について 渡会丹羽子

原著助成論文

1. 遺族のリスク評価法の開発ー死別後の不適応を予測する因子の探索 坂口幸弘 他

調査報告

1. ホスピスにおける倫理的課題への取り組みースタッフの意識調査の結果からー 岩本貴子 他
2. 配偶者との死別体験を有する男性の悲嘆と関連要因に関する研究 鈴木はるみ 他

第 27 回日本死の臨床研究会の記録

記念講演

死の臨床実践の意味ーホスピスケアを通しての洞察 柏木哲夫

教育講演

1. 死で生まれる言葉 徳永 進
2. スピリチュアルアセスメントとケアの実際 村田久行
3. 医療と宗教ー医者・科学者・かつ宗教家としてー 田中雅博

シンポジウム I

いま、死の臨床の「場」を問うー在宅、ホスピス、一般病棟の課題と展望ー

総合コメント 山崎章郎
緩和ケアチーム 高宮有介
一般病棟の課題と展望 西山玲子
ホスピス・緩和ケア病棟の立場から 本家好文

シンポジウム II

豊かな生を支えたものー「場」別に遺族の報告を聴くー 総合コメント 川越 厚
「病院」での日々と看取り～家族の立場から 住川輝行
「病院」での日々と看取り～担当医の立場から 中川昌浩
「ホスピス」での日々と看取り～家族の立場から 徳永悦子
「ホスピス」での日々と看取り～担当医の立場から 下稲葉康之
「在宅」での日々と看取り～家族の立場から 葛山タケ子
「在宅」での日々と看取り～担当医の立場から 川越 厚

交流セッション

死の臨床における看護師の役割 司会 阿部まゆみ
緩和ケアチーム専従看護師としてのホスピスケア認定看護師の役割 馬場玲子
在宅で死の臨床に関わる認定看護師の役割 倉持雅代
緩和ケア病棟開設準備から開設後の認定看護師の役割 鎗野りか
死の臨床における一般総合病院の認定看護師の役割 松尾理代

市民公開講座

「豊かな生、豊かな死のために」鼎談 私の死生観と「死の準備」

柳田邦男 山折哲雄 加賀乙彦

事例検討

1. 「ありがとうと言って安らかに逝って欲しい」と『夫婦の完結』を望んだ妻への関わりを振り返って 齋藤龍生 紙屋克子
2. 拡張型心筋症患者を看取った家族の思いー遺族との個別面接を通してー 小松浩子 小澤竹俊

3. スピリチュアルケアのプロセスとケアの実際 渡辺孝子 平野 博
4. 骨肉腫患者の在宅における緩和ケアに対して漢方とアロマテラピーを併用した一例
谷 莊吉 中神百合子
5. 希望が叶えられず適応障害となった患者とその家族への援助
ー失声でコミュニケーションが困難な事例を通してー 下稲葉康之 田村恵子
6. 役割認識を喪失した患者の性を最期まで支えるケアを考える 恒藤 暁 鈴木正子
7. 子供の出産までに歩けるようになりたいと願う終末期患者を支える看護
白川和豊 西森三保子
8. 病状認識のズレのある患者へのかかわりを通してー死の受容へのサポートー
兼安久恵 長山忠雄
9. せん妄を発症した患者とその家族への対応の難しさ 堀 泰祐 白土辰子
10. 独居の末期がん患者への在宅ホスピスケア
ー「家で最期まで過ごしたい」を望む患者を支援するー 黒田裕子 加藤恒夫

原著

- ミダゾラムの沈痛補助薬としての有用性ーがん性疼痛における少量持続投与方法ー
余宮きのみ 他

原著 助成論文

- がん治療過程における家族集団のゆらぎに関する研究 野村美香 他
- 心停止後腎臓提供のドナー家族の思いの分析
- ー移植コーディネーターによる家族フォローのための基礎的研究ー 朝居朋子 他

調査報告

- わが国のホスピス・緩和ケア病棟における遺族ケアの実施方法（2）
- 遺族のサポートグループの現状 坂口幸弘 他
- 養護老人ホーム利用者のスピリチュアルニーズ
- ー設置母体の異なるホーム利用者との面接よりー 小楠範子 他
- 緩和ケア病棟の入院患者の希望に関する研究 木村清美 他

第26回死の臨床研究会の記録

特別講演

WHO(世界保健機関)がん疼痛救済プログラムの歴史的背景と
世界規模での普及活動

武田文和

特別企画

詩画からのメッセージ ～星野富弘の世界

対談:星野富弘 柏木哲夫 朗読・進行:美咲 蘭

教育講演

- 1 末期患者の食べることへの援助 ―食事と療養のあいだで―
- 2 緩和ケアと感情労働
- 3 末期患者のQOLを高めるリハビリテーション
- 4 呼吸困難に対する緩和治療のアルゴリズム

平野真澄
武井麻子
仲 正宏
田中桂子

シンポジウム

生と死を超えて
「死」の人的意味
死と向き合って生きる生き方
人間の苦しみと緩和ケア
緩和ケア病棟の臨床から
今、想うこと

司会 恒藤 暁・藤腹明子
小原 信
沼野尚美
種村健二郎
大谷木靖子
高羽美帆

交流セッション ホスピスケア認定看護師の教育と活動

- 1 ホスピス・緩和ケア認定看護師への期待
- 2 ホスピスケア認定看護師の教育と課題
- 3 ホスピスケア認定看護師の教育と活動
- 4 緩和ケア病棟におけるホスピスケア認定看護師の活動と展望

司会 季羽倭文子
安達富美子
阿部まゆみ
小松崎 香
清水麻美子

事例検討

- 1 その人らしく生活することを支えるとは
―真意を理解することが困難なケースを通じて―
- 2 身体的疼痛緩和治療は終末期がん患者のQOL保持を常にもたすか
- 3 緩和ケアにおけるNarrative Therapy
- 4 インフォームド・コンセントに基づいたケアをめざして
- 5 米同時多発テロが、臨終近い悪性黒色腫の中年男性同性愛患者に
実感させた危機とその終末
- 6 長期透析療養中、腎癌を併発した患者の緩和ケアを考える
- 7 在宅ホスピスケアにおけるヘルパーの役割
―事例を通して考える―
- 8 終末期に回復の希望を持ち続け葛藤する患者の援助
- 9 危機的な状況にある患者の自己決定権をどう考えるか
- 10 週単位の予後が予想される患者のセデーション希望への対処

長谷川陽子・小田式子
志真泰夫・清水千世
鈴木荘一・射場典子
渡会丹和子・村上國男

平賀一陽・濱口恵子
長山忠雄・田村恵子

中島美知子
久保山千鶴・本家好文
下稲葉康之
月山 淑

原著

脳死患者からの臓器移植に対する医療系学生の意義と関連要因

小松万喜子・他

調査報告

- 1 慢性間質性肺炎患者のQOLに関する検討
- 2 茨城県内の病院薬剤師によるがん患者に対する薬剤管理指導業務の現状
- 3 在宅緩和ケアにおける介護負担に関する研究
- 4 一般病棟の緩和ケアにおける家族ケア
- 5 がんで家族を亡くした遺族の心身健康に関する調査研究
―死別後期間による検討―

駒瀬裕子・他
原田 康・他
張 恩敬・他
宮崎貴久子・他

新垣康子・他

6 わが国のホスピス・緩和ケア病棟における遺族ケアの実施方法

－カード送付と追悼会はどのように行われているのか？－

坂口幸弘・他

7 沖縄県内総合病院に勤務する看護者の緩和ケアに対する意識調査

－看護経験年数による検討－

宮尾 鈴・他

第25回死の臨床研究会の記録

特別講演

共生と循環の哲学

梅原 猛

教育講演

チーム医療における看護の専門性と生命倫理

—遷延性意識障害患者の看護から—

笑いの臨床的意義と実践

「臨死体験の臨床的応用」

代替療法の評価

スピリチュアルケアの原理と実際

ターミナルケアにおける芸術療法

紙屋克子

長谷川啓三

カール・ベッカー

村田久行

飯森眞喜雄

シンポジウム

「不慮の死とその対応」 —さまざまな死に学ぶ—

個々の死に向き合う医療を

貧困の中の死 —難民やエイズ遺児のケアを考える—

不慮の死とその対応

司会 大坂 純・清水哲郎

東嶋和子

中村安秀

西田正弘

パネルディスカッション 遺言・葬儀・相続 —いざという時の手続き—

運営・葬儀・相続

いざという時の手続き

相続と遺言

相続手続と遺産分割の手順

いざという時の手続き

司会 日下 潔・菊池かづ子

高橋牧子

菅原裕典

檜山公夫

今野三雄

上野一雄

事例検討

1 達成不可能な希望を持つ患者を支えること

2 キーパーソン不在による母親としての痛みを支えて

3 T氏夫妻は何を求めていたのか？

4 死に直面し医療者を拒否した患者への関わりについて

5 若くして死に直面しなければならなかった患者と共にすごした81日間

6 生きるために白血病と戦い続けた21歳の患者の死

7 口腔内から下顎部にまで増殖する口腔底癌を持ちながら

最後までその人らしく生きられた症例

—患者さんの性格、家族の関わり、ホスピスケアが寄与するものについての考察—

8 困難な症状緩和と在宅を勧めるタイミングについて

—患者自身が予測していたより長く生きてしまったことから生じた苦悩—

9 一般病棟で終末期の精神的ケアがどこまでできるか

—直腸癌告知後うつ状態となった患者への関わりを通して—

10 高齢末期腎臓不全患者の透析中止を経ての看取り

11 チーム医療におけるコミュニケーションもしくはICの問題点

12 訪問看護の中のスピリチュアルケアの実践 —夢の高島展—

末永和之

前野 宏・柳原清子

前野 宏・柳原清子

辻 悟・二見典子

辻 悟・二見典子

田村恵子

柏木哲夫

我妻代志子

沖原由美子

朝日俊彦

白土辰子

堀尾とみゑ

第8回教育研修セミナー報告

平成13年度日本死の臨床研究会教育研修セミナー報告

柿川房子

日本死の臨床研究会第8回関東支部大会 特別講演

癌で死ぬ人、死ねない人

大熊由紀子

原著

1 遺族の感情表出が精神的健康に及ぼす影響

—感情表出は本当に有効な対処方法なのか？—

2 口唇びらんに対するインドメタシン・リップ軟膏の治療効果

坂口幸弘・他

蓮見透子・他

調査報告

ICU(集中治療室)の終末期ケアを困難にする要因
—ICU看護師の調査結果から—

高野里美

第24回死の臨床研究会の記録

特別講演Ⅰ

日本人の死生観

山折哲雄

特別講演Ⅱ

「宇宙の誕生と未来」

佐藤勝彦

教育講演

症状緩和のためのエッセンシャルドラッグ

恒藤 暁

緩和ケアにおける音楽療法について

栗林文雄

地域における在宅緩和ケアの進め方

馬庭恭子

ホスピスボランティア

山崎章郎

緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割

濱口恵子

シンポジウム

自己決定のプロセスを支える

司会 柿川房子

自己決定のプロセスを支えるー医師の立場からー

志真泰夫

自己決定のプロセスを支えるーがんを知って歩む会を實踐してー

高橋文子

自己決定のプロセスを支えるーMSWの立場からー

磯崎千枝子

自己決定のプロセスを支える

種村エイ子

事例検討

1 モルヒネ大量使用患者へのケア

ー緩和ケアチームを含めたチーム医療の実際ー

中保利通

3 在宅での看取りを可能にする要因を考える

川越博美

4 終末期患者の不眠に対する援助について

丸口ミサエ

5 ターミナル期における性問題について

川越 厚

6 急性腎不全におちいり、延命のため透析を選んだ腎癌患者を通して

癌患者への透析治療の是非と、医療情報の提供について考える

斉藤龍生

7 自己決定できない患者とその家族ケアを通して

渡辺孝子

8 「私、死なないですよ？死なないと言って下さい」と願う

16歳の少女への関わりについて

中島美知子

9 心がはりさけそうと訴える患者にどう寄り添うか

ー患者と看護婦の相互関係を中心にー

田村恵子

第7回教育研修セミナー報告

医療者のコミュニケーション

山崎章郎

原著

1 ホスピス緩和ケアにおける死別を体験する家族のケア

ー現状と今後の展望ー

松島たつ子

2 配偶者喪失後の精神的健康に関連する死別別要因に関する予備的研究

坂口幸弘・他

3 ホスピス患者の死生観

細井 順・他

4 青年期および壮年期の男女間における「死に関する意識」の比較研究

田中愛子・他

5 死別経験による遺族の人的成長

東村奈緒美・他